

野口賞 奨励賞にひでじビール

顕彰会が発表 11月29日に授賞式

延岡市の野口遵(したがう)顕彰会(清本英男会長)は17日、第18回野口賞の一産業振興奨励賞に、宮崎ひでじビール(永野時彦社長、梶川悟史ビール事業部統括部長)の「県産農産物など地域資源を活用した世界に認められるビール・発泡酒の開発」を選んだと発表した。11月29日午後5時30分から同市紺屋町のエンシティホテル延岡で授賞式を行い、賞金50万円を贈る。本賞(100万円)の受賞者は該当なしとした。

同社は、県産のクリを「世界最高賞を受賞し使ったアルコール度数の高い、瓶内で長期熟成させることで味わいが増す熟成ビール」栗黒(くりくろ)を開発、ワールドピリアワード2017「

アで解決した点、収益性、地域資源を活用して事業展開をしている点などが高く評価された。

野口賞は、旭化成の創業者で国内の電気事業

界、化学事業界の先駆者でもある野口遵の後に続く事業者や事業を県内で育成しようと、顕彰会が平成13年に設けた。今年

本常夫旭化成延岡支社長や小林宏史野口研究所理事長ら5人の選考委員が審査を行った。

新庁舎 回答に異議申立書提出 建設計画

住民有志の門川町を考える会

川町を考へる会は18日、新庁舎建設計画の凍結など求め提出した陳情書に対して、町側が示した計画通りに建設を進める内容の回答書を不服とし、

異議申立書を提出した写真。真。回答は庁舎高台移転計画の経緯説明のみだった」とし、再回答を求めている。

同会は先月3日、町内の有権者の半数を超える

建設費用などの再検討を求めた。

町側は同18日に回答。

新庁舎の主な財源となる国の緊急防災・減災事業債の活用期限が平成32年度末であること、凍結させた場合、同事業債が活用できず14億円が追加負担となることなど挙げ、「将来の町民への負担などを考慮すると、今回の

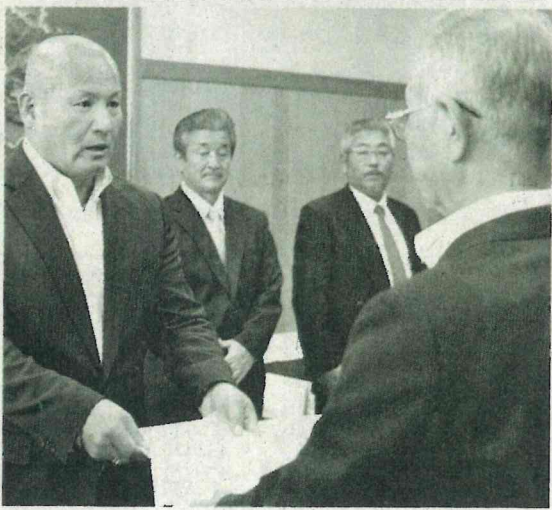
財政的なタイミングを逃すことは懸念な判断ではない」としていた。

異議申立書は、同会の黒木巧代表ら3人が役場を訪れ、金丸隆康副町長に提出した。

その後の会見で、黒木代表は「回答を精査したが、今までの建設計画の

説明のみで回答になっていない。『重く受け止める』ということだったが執行部の誠意は見えてこなかった。

金丸副町長は「回答では経緯と併せ、その必要性を示した。新庁舎は防災減災に必要な施設。これからも理解を得られるよう努め、事業を成し遂



初の登拝渡御

春日神社 創建1300年式年大祭

けさ6時に出発
みこし、愛宕山に上る

恒富地区を巡行 夜半式神楽を奉納

718年の創建とされる延岡市恒富町の春日神社（木村健男宮司）の御鎮座千三百年式年大祭がきょうから、同神社などで始まった。大祭はあすまで、50年に1度のお祭りとして節目を祝い、神威発揚を願う。



初の「登拝渡御」。威勢のいい掛け声とともに愛宕山を上る親みこし

初日のきょうは、22回行。このうち親みこしは体で構成する「春日会」今回初めて、ニギノミ（柳田真吾会長）が親みこしと新みこしを担いで恒富地区内約20キロを巡る。愛宕山（旧名・笠沙）か

さき「山」山頂へと登る。「登拝渡御（とうはいり）」をを行った。午前6時に神社を出発した親みこしは、そのまへ担ぎ手150人が「オーサイヤー、チヨサイヤー」と威勢のいい掛け



午前6時に出発。春日神社の御神門をくぐる親みこし

り。一生に一度の機会だと思つてしっかりと務めた」と話した。2基のみこしは、片田町公民館で合流後、塩浜公民館、浜公民館、伊達公民館、イオン延岡店などを巡り、宮入りは午後7時ごろ。神社では、本殿横の舞台で市内5団体が夜半式神楽を奉納。午後1時から9時ごろまで全町番を舞う。

2日目のあすは、午後1時30分から参典。神社本庁幣を供える献幣使（けんぺいし）に都農神



愛宕山の奥宮・極天様の前に親みこしを置き、参拝する担ぎ手

社、宮司を招いて行われる。天下太平や家内繁盛などを祈願する小笠原流弓馬術礼法のお祓（はら）い儀式「葺目（つきめ）の儀」では、同地区の医師で弓道範士8段の川名修徳さんが鎗矢（かぶらや）を放ち、風を切る音で境内を清める。



親みこしの担ぎ手150人が交代して担ぎ、愛宕山の登山道を上った

2018.10.20